



青森総合卸センターニュース

編集・発行 協同組合青森総合卸センター 〒030-0131 青森市問屋町2丁目17-3 ☎017-738-4711 FAX017-738-7323
URL <https://www.tonyamachi.com> E-mail info@tonyamachi.com 発行/2022年1月1日

絵：岩木山



石澤 暁夫（組合員(株)エーアイサイン 代表取締役社長）・画

コロナ禍で暗くなりがちな世の中を元気づけるために様々な表情の岩木山を2年間で200点描く

新年明けましておめでとうございます。



理事長

西 秀 記

2021年の国内経済は、上半期は新型コロナウイルス感染拡大の影響により厳しい状況が続いておりましたが、ワクチン接種が進んで国内では感染が落ち着き、経済持ち直しの兆しが見え始めました。しかし、原油や原材料価格の高騰、半導体不足や部品調達難などにより、景気回復のペースが鈍化しそうです。

このような状況のもと昨年の当組合は、新型コロナウイルスのワクチン接種を医療機関の協力のもと問屋町会館で実施することができました。初日には小野寺青森市長の視察や多くのメディアにも取材され、注目度の高さがうかがえました。接種対象は組合員企業の従業員や家族、近隣企業、大学生等にも門戸を広げ、接種者は3千3百人を超えてワクチンの早期接種が図られました。

「経済的価値創出事業」では、組合の最優先課題であります組合員跡地問題において廃業が1件ありましたが、新規加入が1件あり、組合員数は現状を維持できました。また、卸団地再整備に向けたインフラ等の調査では、夜間照度調査で照度不足が判明した箇所に防犯灯を一部増設。共同施設の劣化調査により判明した劣化の著しい施設については、順次補修等の対応をしています。

「社会的価値創出事業」の安心・安全事業では、問屋町の見守り機能を維持するため、交換時期の到来した防犯カメラを入れ替えました。健康事業では、インフルエンザの集団予防接種や問屋町100日ウォーキングを継続開催しました。そのほか新たな取り組みとして、2021年度を組合の「SDGs元年」と位置づけSDGs宣言制度を創設。PR看板の設置や各種案内書へのアイコン表示、SDGsバッジの無料配付など、組合員のSDGsへの認知度向上に努めました。

「文化的価値創出事業」では、問屋町花いっぱいプロジェクトの推進で、問屋町大通りや組合員施設に設置したフラワーボックスが秋まで街を彩り、景観美化向上に寄与しました。

さて本年の組合は、6月にコロナワクチン接種の追加接種を実施する計画がございます。また、新たな試みとして多業種連携型の問屋町版インタースhipに取り組み、組合員の人材確保を支援します。このほか、問屋町ビジネススクールが開校10周年を迎えたことから3月には記念講演会を開催するなど、コロナ対策を十二分に講じて各事業を進めてまいります。

新しい年が、組合員の皆様の更なる発展につながる良い年でありますよう心からお祈りいたします。

新型コロナウイルスの職域追加接種についてなど承認
第7回理事會

12月23日(木)に第7回理事會がホテル青森で開かれ、審議の結果、全て原案どおり承認された。

また事務局から問屋町ビジネススクール10周年記念講演會・祝賀會の開催について報告した。

主な案件審議は次のとおり。
案件一・問屋町ビジネススクール運営委員會からの意見について

2022年度カリキュラムなどが承認された。

ハザードマップ等について学ぶ
組合員昼食會

組合員昼食會が12月2日(木)に問屋町會館2階大会議室で開催され、組合員ら50名が参加した。

はじめに、青森市総務部危機管理課の佐々木課長と吉田主事が青森市のハザードマップについて説明した。

ハザードマップには災害ごとに被害が想定される地域や指定緊急避難場所、指定避難所が示されている。昨今の大規模な洪水災害の頻発により、国がハザードマップを見直したのを受け、市でも洪水ハザードマップを更新。洪水ハザードマップには浸水想定

案件二・新型コロナウイルスの職域追加接種について
案件三・組合員跡地買取資金の借換について
案件四・(株)商工組合中央金庫の株式購入について

青森公立大学で合同企業セミナー開催

県内の5つの卸団地で運営する青森県流通団地連絡協議會の合同企業セミナーが、12月16日(木)に青森公立大学で開催された。セミナーには組合員企業14社が参加し、同大学の3年生等が企業ブースを訪れた。

学生たちは当日の午前中に



メモを取りながら説明を聞く学生

大学主催の「合同企業セミナーのまわり方講座」を受講。まわる際の事前準備やマナー、聞き方のポイントなどを学んだ。午後から当協議會のセミナーに臨み、講座で学んだ

だ点に気をつけながら企業の説明に耳を傾けていた。参加した企業の担当者には「たくさん質問され、学生の熱心さや真剣さが伝わってきた」と感想を述べた。

業務報告

主要事項

- 12月
- 1日▽東北卸商業団地連絡協議會意見交換會
- 2日▽組合員昼食會
- 3日▽第45回問屋町ボウリング大会(2日目)
- 7日▽第13回フラワーアレンジメント教室(男女不問)
- 8日▽問屋町支店長・所長連

- 絡會第30回親睦交流會
- 9日▽第45回問屋町ボウリング大会表彰式
- 10日▽問屋町納税貯蓄組合第51回定例会
- 13日▽公共施設等視察會
- 15日▽金融審査會
- 16日▽県流通団地連絡協議會合同企業セミナー
- 20日▽第1回問屋町ビジネススクール運営委員會
- 21日▽第2回金融事業検討特別委員會
- 23日▽第7回理事會
- 12月
- 9日▽伝わる資料のつくり方

問屋町ビジネススクール

「ぎだったため」と説明。近年は、ブランドに関わる著作権と商標の相談が多いこと。「弁理士や弁護士による無料相談會を県内各地で開催しているほか、要望があれば企業訪問もしている」と紹介した。

吉田主事は「水害・土砂災害時における警戒レベルには5段階あり、避難のタイミングとして示されていて、レベル3〜5は市が発令。レベル3は高齢者や逃げるのに時間がかかる人、河岸浸食があるような危険地域に住む人が対象で、レベル4の避難指示は健全者が対象となる。レベル5はすでに災害が発生している危険な状況なので、レベル4が発令されたらすぐに避難してほしい」と語った。

堀川課長は「アオパスには運賃に使えるお得な交通ポイント機能を搭載。アオパスを使い市営バスなどの運賃を支払うとポイントがたまり、ポイントは次の乗車時に運賃に充当される。最大17%ポイントサービスが受けられ、乗れ

雪田氏は「店舗を持たずにSNSで宣伝してアニメキャラクターのキーキを作り販売していた女性が著作権法違反で書類送検された。売上は2年間で400万円程におよび、他にも著作権法違反のキーキを扱っている店がある中、この女性が訴えられたのはやり過



組合員昼食會

謹賀新年

旧年中は格別のお引き立てをたまわり厚くお礼申しあげます。本年も変わらぬご愛顧のほど、よろしくお願ひ申しあげます。

青森問屋町配送(株)

代表取締役 西 秀記
常務取締役 赤坂 晃

北日本流通ヴァン(株)

代表取締役 西 秀記
取締役副社長 川崎 益美
専務取締役 藤本 和夫
常務取締役 森山 慶一

新年のメツセーじ

(協)青森総合卸センター事務局職員



専務理事
藤本和夫

皆様あけましておめでとうございます。今年是最強の運気の年といわれる三十六年に一度の「五黄の寅年」です。その「五黄の寅年」生まれの私としては運気を引き寄せられるものと期待しています。また、昨年七月から始めた一万歩ウォーキングを持続できればと思っています。



理事・事務局長
青森間屋町配送係業務取締役
赤坂晃

昨年、秋口からコロナが落ち着き、懇親会等の会合も増え、少しながら経済が動きだした感がありました。



業務部長
小田切勇治

昨年は、東京2020オリンピックの聖火ランナーという貴重な体験をしました。ギリシャのオリンピアから運ばれてきた聖火を受けた時の感動は一生の宝物です。

新しい年も凡事徹底で人間力を磨きます！



業務課長
西田一実

一昨年に産まれた第4子のおしゃべりが始まり、部屋中を暴れまわり、賑やかで楽しい毎日を過ごせています。



総務課長
成田賀子

昨年は週末となると実家の畑に作物を収穫しに行き、自宅の庭でのBBQが大自然でのキャンプに沼(ぬま)ったアクティブすぎる年でした。



総務課長代理
五十嵐敦

今年は節目の40歳になる年となります。ありがたいことに、いまだに20代に間違えられることも(笑)。いつまでも若々しく、フレッシュな気持ちで、一年頑張りたい

と思います。



業務部主事
春山心仁

昨年はだらしないうちにムチを打つため筋トレを始めました。いまだ体に変化は見られませんが継続は力となることを信じ、日々の仕事と同じく頑張りたいと思います。本年もどうぞよろしくお願いたします。



業務部書記
堀内大暉

昨年の4月より正社員となりました堀内と申します、よろしくお願いたします。



業務部主幹
田中静香

昨年は人生上半期の清算の一年でした。趣味のライブ&御朱印帳集めで全国行脚を泣く×2引退し、代わりに愛猫家にとって最たる誉れである猫のための家を建てることができました。



業務部主査
鎌田綾野

光栄が目眩みます。新たな一年皆様に幸多からんことを。

昨年11月に第二子となる男の子を出産し、二人目の泣き声をBGMにお喋りな1才の長女のお世話をする毎日で気づいたら新年となっていました。

あつという間に過ぎていく1日の中でも今しかない子ども達との時間を大切に、今年も仕事と育児を頑張っていきたいと思っています。



総務部主事
鶴谷優子

昨年は、自然を求めて大好きな山登りがたくさんできたので、とても幸せな一年でした。

早く他県の山や旅行にも出掛けられるようにコロナが収束してくれたらと思います。体力を付けて今年も頑張ります。



総務部書記
伊藤舞

約3年間担当した郵便局を卒業し、去年から新しい業務に取り組んでいます。

今年は20代後半に突入したので健康に気をつけて、さらに成長できるように精一杯頑張りたいと思います。



郵便局窓口担当
葛西友紀

今年の7月から簡易郵便局の担当になりました。覚えることが多く月日があつという間に過ぎるよ

うに感じました。まだまだ分からないことが多くご迷惑をおかけする事もあると思

います。が、よりよいサービスを提供できるよう精進してまいりますので、よろしくお願いたします。



間屋町交流ストアパート
成田あすか

昨年は、青森県内でもコロナが猛威を振るい、自粛継続の一年でしたが、ネットのおかげで趣味への散財額は増える一方です。今年もコロナ感染に気を付けています。



間屋町交流ストアパート
門間由紀子

昨年は、たくさんストアへご来店いただきましてありがとうございます。お客様とのちょっとした会話がとても楽しい時間となっています。

今年もたくさんお客様と交流したいと思っています。



青森間屋町配送係業務部長
佐藤博善

コロナウイルスの大流行から2年。自粛生活が続いており、マスク着用が当たり前の生活に慣れてしまった気がします。

段々と戻りつつあるとは言っても、イベント・祭り等は、まだ制限を強いられているのが現状ですが、1日も早く特効薬が開発されて、前の様な日常に戻る事を祈るばかりです。それまでもう少し頑張りたい。

2022年 ポストコロナの時代に求められる 持続可能な団地運営を目指す



職域ワクチン接種

このような中、新型コロナウイルス対策の切り札としてワクチン接種がスタートし、当組合でも2021年8月から10月にかけて職域接種を実施。組合員企業の従業員や家族に加えて近隣企業従業員等にも門戸を広げ、接種者は3千3百人を超えた。ワクチンの早期接種で、安心で安全な職場環境の整備や経済活動の早期回復に一役買った。

新型コロナウイルス、中国武漢市に端を発した新型コロナウイルス感染症によるパンデミックは、2021年も世界的に大きな影響を及ぼした。国内では2021年1月に第3波、4月に第4波、7月に第5波と感染拡大と収束を繰り返し、これまでに173万人が新型コロナウイルスに罹患するなど、経済活動のみならずあらゆる活動に大きな影響を及ぼした。

新型コロナウイルス ポストコロナを見据えて

2020年度から2カ年計画で取り組んできた全国卸商業団地協同組合連合会(商団連)の卸商業団地機能向上支援事業。当組合では、卸団地の再整備に向けて、道路・歩道劣化調査、交通量調査、夜間照度調査、共同施設等劣化調査の4つの調査事業を実施した。調査した結果、やはり造成後50年を経過した問屋町地区の道路等の経年劣化が進んでいることが判明した。また、問屋町地区の街路樹が大きく成長しすぎているため街

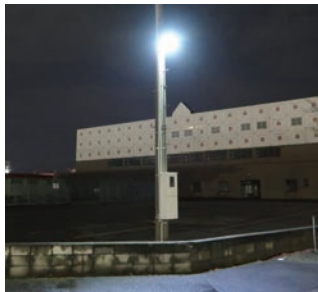
2020年度から2カ年計画で取り組んできた全国卸商業団地協同組合連合会(商団連)の卸商業団地機能向上支援事業。当組合では、卸団地の再整備に向けて、道路・歩道劣化調査、交通量調査、夜間照度調査、共同施設等劣化調査の4つの調査事業を実施した。調査した結果、やはり造成後50年を経過した問屋町地区の道路等の経年劣化が進んでいることが判明した。また、問屋町地区の街路樹が大



職域ワクチン接種

イルスは変異を繰り返すため予断を許すことはできない。組合でも3回目となるワクチンの職域追加接種実施に向けて、行政や医療機関との連携を密にして取り組むとともに、新型コロナウイルスに関連する補助事業や各種情報についてもタイムリーに提供し、引き続き、組合員を支援したい。

商団連支援事業 卸団地再整備に向けて



増設されたLED防犯灯

路灯の照明を遮っていたり、根が隆起し歩道に凹凸を作っていることも明らかになった。今後は、調査結果に基づき行政との協議を行い、具体的な補修工事の実施に向けた検討を進めていく。なお、夜間照度向上については青森市との協議がまとまったことから、2021年度中に照度不足箇所にLED防犯灯51台を増設する工事を実施中で、2022年3月までに設置される予定。増設した防犯灯は青森市に交付し、維持管理を移管する。

SDGs 2年目 持続可能な社会を目指して

2021年度は、当組合のSDGs元年となった。組合ではSDGs推進委員会での協議を経て今後の推進方策を策定し、SDGsを意識した団地運営に取り組んでいる。2021年度には、PR看板の設置やSDGs、バッジの配付及び販売に加え、「問屋町SDGs宣言」制度を創設。当制度により組合員のSDG



問屋町SDGs宣言

sへの認知度向上と取り組みスタートを促した結果、12月までに17社が宣言を行った。年度内にはSDGsに特化したパンフレットの作成及びホームページへの掲載を行い、組合事業とSDGsの関連をわかりやすく見える化し、より一層SDGsを身近に感じてもらえるように働きかけていきたい。2022年度は、問屋町SDGs宣言を行う組合員を増やすため定期的な周知及び新規募集を継続するほか、宣言企業の取り組み事例の紹介等を行い、普及啓発を行っていく。これらにより持続可能な社会を目指すとともに、組合員が取引先や顧客から選ばれる企業になれるようSDGsに対する認知度向上や取り組みの拡充に努めたい。

ビジネススクール10周年 地域企業を支援する

問屋町ビジネススクールは、それまで青森になかった



ビジネススクール

常設の企業教育研修機関として2011年10月に開校し、今年度10周年を迎えた。組織の基礎となる初級から中級レベルをターゲットに、営業や会計・総務、自己啓発等の研修メニューと計画的なキャリアアップを提供。10年間で延べ5千人以上の方々に受講されるなど、組合員を含む中小企業の組織活性化や従業員のスキルアップに微力ながら貢献してきた。コロナ禍により企業の研修計画にも影響が出ているが、企業の成長にとって人材育成が重要なことになり変わりはない。経営環境の変化が激しい時代にこそ、しっかりと基礎力を有した変化に対応できる従業員が必要であり、そういった従業員の育成が今以上に重要となる。問屋町ビジネススクールでは、3月に10周年を記念した無料講演会を開催するほか、2022年度は新たな講師も迎えつつ、より充実したカリキュラムで地域企業の人づくりを支援していきたい。